あきた国際フェスティバル２０２４
報告書

1. 事業概要

（1）開催日時　2024年10月6日（日）10：00～16：00

（2）場　　所　秋田拠点センターアルヴェ1階「きらめき広場」（秋田市東通仲町４－１）

（3）主　　催　公益財団法人秋田県国際交流協会

（4）共　　催　独立行政法人国際協力機構東北センター

（5）目　　的　県内の在住外国人による母国紹介や国際交流団体の活動紹介等を通じて、多くの県民と在住外国人が互いの文化に触れ、多文化共生・国際交流・国際協力等への理解を深める。

2. 県民参加の促進

■参加者数　1,380人

（来場者 1,190人：ブース・パフォーマンス関係者161人：スタッフ・ボランティア29人）

より多くの県民の目に留まり気軽に参加してもらえるよう、交通アクセスが良く開放的な秋田拠点センター「アルヴェ」きらめき広場を会場にした。キッチンカー出店やバルーンアート、小学生向けワークショップなどの企画や広報の充実を図って開催したことにより、幅広い国・地域・年齢層の県民が来場した。ワールドブースやステージパフォーマンス等を通じて在住外国人と県民が触れ合い、お互いへの理解と関心を深める機会となった。

3. ワールドブース

在住外国人による母国・文化紹介や国際交流団体による活動紹介が行われるワールドブースではクイズラリーが実施され、多くの県民が各ブースを回りながら23の国・地域、27団体に及ぶ多様な出展者との異文化交流を楽しんだ。前年同様、クイズラリーで集めたスタンプの数に応じて世界のお菓子をプレゼントする企画に加え、若年層や家族連れの参加促進を図るため、中学生以下を対象にバルーンアートの景品を追加し好評を得た。

■出展：27団体 ／バニヤンツリー（バングラデシュ）、バハィクーボ（フィリピン）、ウィジャヤクスマ（インドネシア）、秋ネパ友好協会（ネパール）、ドイツ、ロシア、アメリカ、中国、韓国、ニュージーランド、Africans in Akita Association（タンザニア、ボツワナ、マラウイ、ガーナ、モザンビーク、ケニア、ナミビア）、秋田高専留学生グループ（ウガンダ、モンゴル、ブルネイ、マレーシア、タイ）、タイ（由利本荘市日本語教室）、マダムピプレット（フランス）、技能実習生（インドネシア）、ヒッポファミリークラブ、秋田ボーダーレススピーカーズ、秋田県日中友好協会・女性委員会、秋田県人権擁護委員協議会、日本国際連合協会秋田県本部、秋田ユネスコ協会、青年海外協力隊秋田県ＯＢ会、ガールスカウト秋田県連盟、国際交流オープンクラス、仙台出入国在留管理局、大仙市国際交流協会、JICA東北　※順不同

4. ワークショップ

新企画として、小学生向けワークショップ「ベトナムのちょうちんを作ってみよう！」を午前・午後あわせて計8回実施し、延べ31名が参加した。ベトナム人のAIAコミュニティサポーター2名を講師として迎え、工作を楽しむとともに、ベトナムの言葉や文化についても学ぶことができた。

5. ステージパフォーマンス

県内在住外国人による伝統舞踊やダンス、民族楽器の演奏など多彩な演目がステージを飾り、観覧者も手拍子したりパフォーマンスに参加するなどして共に会場を盛り上げた。在住外国人が日本の伝統文化に触れることができるよう、角館高校の飾山囃子部による祭囃子と手踊りも披露された。フィナーレを飾ったインドネシア伝統舞踊では、在住外国人と県民が一体となり盛会のうちに閉幕した。

■出　演：スコットランドのバグパイプ演奏／ネパールの民族踊り／角館の飾山囃子／アフリカのダンス／タイの伝統舞踊／コロンビアのラテンダンス／フィリピンのフォークソング／インドネシア伝統舞踊※出演順
■その他：ブース出展者インタビュー

6. JICA

JICAブースではボランティア事業と外国人材・多文化共生の取り組みについて紹介、ステージでの事業紹介やクイズを通して県民と交流し、効果的な広報啓発を行う機会となった。また、青年海外協力隊秋田県OB会と協働してJICA海外協力隊の募集ポスター掲示やパンフレットの配架などを行ったほか、OBによる隊員経験の紹介などが行われた。

7. AIA

外国人相談センターやAIAコミュニティサポーター制度、「にほんごでおはなし」などの事業のほか、第二・第四木曜日に協会内で開催しているインターナショナルディ（国際交流員などとの交流サロン）などの紹介を行った。

8. パネル展示（多文化共生・日本語教育）

秋田県の在住外国人の状況や在住外国人が日本で暮らすうえでの４つの壁（ことばの壁、心の壁、文化の壁、制度の壁）、「やさしい日本語」の使用や災害時のサポートの必要性などの多文化共生について理解を深めてもらうためのパネルや、秋田県の日本語教育に関するパネルの展示を行った。